

研究のまとめ

1 教科領域研究テーマ

豊かなスポーツライフの実現に向けて、主体的に運動に取り組む生徒の育成

2 成果（○）と課題（●）

(1) OPP シート等を活用した評価活動の充実

○学びの記録として、授業で学習した知識をもとに「ゴールイメージに近付くために大切なこと」や「自己の学びの到達度」などについて記入させた。そうすることで、単なる知識の記録ではなく、自分自身の学び方について振り返ることができ、単元目標の達成に向けて、自ら学習を調整しようとする姿が見られた。

○単元の始めにビフォー動画、単元の終わりにアフター動画を撮影させ、ロイロノート内で作成した OPP シートに貼り付けさせた。動画を見ることで、客観的に自己の姿を分析することができ、次の授業に向けての具体的な目標を立てることができた。

●振り返りを時間内で記入することが難しい生徒がいたため、時間を確保する工夫が必要である。

●生徒の振り返りの内容を見ると、学習内容についての記述が多かったため、学習方法についても着目させるなど、汎用性のあるものにするための工夫が必要である。

(2) AAR サイクル（見通し・行動・振り返り）を生かした授業展開の工夫

○単元終了時の理想とする姿をイメージさせることで、1 時間 1 時間の授業に意欲的に取り組もうとする様子が見られた。

○生徒同士による相互評価を取り入れたことで、仲間との関わり合いの中で、目標への達成具合を確認しようとする様子が見られた。

●生徒たちのメタ認知が十分に育っておらず、「できていない」のに、「できている」と感じており、仲間の目標の達成度を評価する場面において、適切なアドバイスを送ることができていなかった。そのため、基本的な技能が定着していない生徒がいた。的確な自己評価へと導く手立てや、効果的な相互評価の在り方について考えていきたい。

●保健体育では課題を解決するためにどんな練習をするかが、AAR サイクルの「行動」に当たると考える。生徒がエージェンシーを発揮して、自分たちで練習環境を整えたり、課題解決のための的確な練習法を考案したりするところまでは実践できなかった。生徒同士が、課題の解決に向けて、対話し続けることのできる学習場面を設定するとともに、教師がファシリテート力を発揮し、対話を活性化させる必要があると感じた。

3 次年度に向けて

豊かなスポーツライフの実現のためには、運動やスポーツの楽しさを味わうことが必要である。しかし、保健体育科の授業では、技能の定着やレベルの高いゲーム様相を求めてしまいがちである。今回の実践を通して、運動やスポーツの持つ「楽しさ」を生徒一人一人が味わうためには、個人内の技能の伸びや思考の深まりを実感させ、「もっと学びたい」という意欲を掻き立てることが大切であると改めて感じた。また、誰とでも運動やスポーツを楽しむためには、仲間との関わり合いの中で他者と協働する力も必要であるため、活動時の雰囲気づくりも大切である。仲間どんな声掛けをすれば楽しく活動できるのかを生徒に考えさせて実践させるなど、態度面での指導方法についても引き続き研修を深めたい。